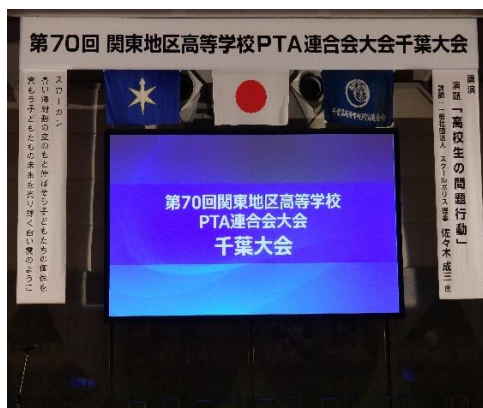


第 7 0 回関東地区高等学校 P T A 連合会大会「千葉大会」 に参加しました。



<全体会>



<分科会>

7月23日(火)～24日(水)にかけて、幕張メッセ国際会議場にて、第70回関東地区高等学校PTA連合会大会「千葉大会」が開催されました。

1日目は全体会、2日目は分科会(5分科会)が行われました。

本校から、PTA本部役員の、松原会長と大内副会長が出席し、生徒への関わり方、そしてPTAの在り方や取り組みについて、講演・発表を聞いてまいりました。

ご報告

PTA 会長 松原 正和

第70回関東地区高等学校PTA連合会大会「千葉大会」に参加してきました。まず、全体会が実施され、千葉県立幕張高等学校シンフォニックオーケストラ部のすばらしい演奏と、NPO法人柏おやじダンサーズのコミカルなパフォーマンスで会場も和やかな雰囲気スタートしました。

記念講演では、一般社団法人スクールポリス理事佐々木成三さんによる「高校生の問題行動」という演題で講演を聞きました。講演内容は題名と内容が良い意味で一致しない感じでしたが、今ニュースでも取り上げられている闇バイトやSNSでのトラブルを例に挙げ、本質を疑わず、表面的な事を信用してしまい犯罪に巻き込まれる事を防ぐには、保護者・先生

そしてPTAが連携して生徒達に関わっていき、早い段階で対応が必要だそうです。その為には、全員が連携し、コミュニケーションを取って繋がっていく必要があると思いました。

2日目は、第5分科会「千葉県のコミュニティー・スクールの取り組み」と題し、千葉を代表とする千葉県立多古高等学校及び、下総高等学校の実践発表に参加してきました。

高校がどの様に地域と関わって進めているのかとても興味がありました。両高校とも、水農と同じ農業高校であり歴史の長い学校だった事に驚きました。千葉では導入している学校が多く、令和7年度には特別支援学校で100%、県立高校でも70%を超えるとのこと。茨城では、恥ずかしい位遅れをとっており、未だ2校しか取り入れていません。教育に関しても遅れている実情が見えてきました。コミュニティー・スクールとは、地域住民や保護者（PTA）、地域学識経験者が運営委員となり学校の運営に意見を言う事が出来、地域住民一帯となって学校を運営することです。地域住民の方々が参加する事で、地域との一体感が生まれ、地域一帯で学校を育てるという形になります。今回発表された2校共、導入した事により、今まで出ていた学校への指摘等も減少したという事です。やはり、学校単体で運営を行うのではなく、地域一帯で学校を支えていく事が必要だという事を感じました。立哨指導等も、学校PTA・職員だけでなく、地域の方々に後台駅周辺や危険個所に立って頂き、指導して頂くという事も有っても良いと思いました。

2校共、地域企業や団体と共同開発を行ったり、地域の問題に取り組んだりして関わる事でお互いに成長している事を感じました。

しかしながら、水農も遅れている訳ではなく、農業クラブ等でのプロジェクト発表会で近隣農家の方々や、和牛甲子園等で外部講師等とも関わって頂いており、更には、近隣幼稚園・小学生との交流も行っており、コミュニティー・スクールのベースは出来ているという発見もありました。

水農の更なる発展には、地域住民との繋がりが必要なのではないか？という事に気づきました。水農が所在する那珂市では、小中一貫教育及び、コミュニティー・スクールが定着しています。今後、水農としても参加していても良いのではないのか？と考えさせられる分科会でした。